

第三回生物多様性地域戦略改定検討会 委員発言

資料2-1

テーマ	意見	発言者
地域戦略改定方針に関すること		
広域的行政としての役割	行政界を超えたつながり（グランドマスタープラン）のイメージが必要である。区市町村が取り組むべきものすべてを記載するのは不可能にせよ、広域行政として各区市町村の戦略のつながりを示せるものとするべき。 （※全区市町村の地域戦略を収集・整理・分析）	鈴木部会長
広域的行政としての役割	区市町村に対する上位計画であり、河川、崖線、地下水、雨水など、それらのつながりを示す星取表を作るというのは必要だと思う。それをすべて挙げた中で、東京の地域ごとに進めるべき取組を整理し、示すべきである。また、文化的景観を取り入れるとともに、土地利用の反映による変化を捉え、今後の課題を浮き彫りにしていくべきと考える。	荒井委員
東京都の特異性の分析	国の生物多様性センターが出している情報の中で、東京都がどういった特異性を持っているかは分析できる。上位計画を知ることが必要と考えている。	鈴木部会長
今後の検討方針	東京の特色（外部に発信できる良いところ）を整理した後、生物多様性の課題を整理すべき。特色を整理しながら課題も整理すると議論の視点が定まらず、効果的な議論とならない。	辻委員
将来像の描き方	「未来の東京」戦略ビジョンを上位計画として受けとめる。ただ、これもSDGsも、ゴールを示しているだけで、プロセスはない。どのように実現するかはそれぞれで考える必要がある。この戦略としては、上位計画を受けてミニゴールを考え、そのミニゴールにどのようにボールを放り込むかというプロセスを求めることと意識している。	鈴木部会長
将来像の描き方	自然体験や教育、外来種対策など、東京の地形区分ごとの検討では出てこない要素もある。ネイチャーベースドソリューションなど、より大きな空間スケールで東京都全体としてどのような姿を目指していくか、またどのような取組を関係者にお願いするかという視点で、漏れのない議論をし、将来像を描いていくべきである。	佐伯委員

テーマ	意見	発言者
東京の自然のつながり	<p>湧水が枯渇しているのは、台地上の土地利用が原因である。農地を宅地化し、モルタル舗装した結果、浸透面がなくなり湧水が減少した。ゲリラ豪雨が発生すれば、雨水側溝から川に流れ込み、臭い東京湾になるなど、生物多様性は全てが繋がっている。</p> <p>地表上のエコロジカルネットワークの議論に加え、地下の水の流れのつながりなど、台地上での取組が崖線の湧水の復活につながることを示すことで、より良い未来像が描ける。</p>	原口委員
	<p>崖線のつながりは生物多様性上重要だが、区市町村は圏域内の取組が中心となるため、行政界を超えた取組が進むように東京都が方針を示すべき</p>	須田委員
	<p>エコロジカルネットワークの重要性が浸透し、緑をつなげるという意識が高まっている。ただし、外来種の問題も大きくなっており、あえて孤立させておくべき緑もあるという観点も重要であると思う。</p>	須田委員
関係団体との連携に関すること		
関係団体への働きかけ	<p>東京都が勝手に作っていると思われないよう、各区市町村、企業、ボランティア団体、学校などそれぞれの関係者が事前に読んでから方針を立てるという作り方にすべき。</p> <p>こういう作り方にすることで、団体の関心ごとに直結し、関係者の主体的な行動につながる。</p>	鈴木部会長
	<p>自然環境の全体のつながりを意識せず、その立ち位置を認識していない区市町村が多い。東京都が各区市町村に自然の特徴に関する情報を同じ精度・解像度で提供し、各区市町村が持つ自然の特徴やそこで進めるべき取組などを星取表にすることで、各区市町村独自の取組を推進する必要がある。</p>	鈴木部会長
東京の特徴的な自然の代表例に関すること		
全体	<p>取り上げている代表例の密度が都区内と多摩部と島しょ部で差が大きい。例えば、奥多摩や、三頭山、御岳山など、都民が知っている貴重な自然は他にもあり、島しょ部も島ごとに特色があるはずだが紹介されていない。都民に示す自然の整理をした方がよい。</p>	辻委員
	<p>戦前は各地形が持つ特性を生かした生活により、生物多様性の利用に無理が生じていなかったが、開発の進行とともに、各地域の特性が失われてきた。本来の特性を整理した上で今後の取組の方向性を整理すると、持続可能な生物多様性の取組につながると思う。</p>	原口委員
山地	<p>雲取山やその周辺には亜高山性の森林があると書いてあるが、亜高山性の森林よりも山地性の広葉樹林のほうが圧倒的に多いので、その特徴を記載すべき</p>	辻委員

テーマ	意見	発言者
市街地	市街地に存在する街路樹や学校法人の緑などは、地形区分での整理から抜け落ちる可能性がある。地域戦略を通じて生物多様性を自分事として捉えてもらうためには、城南や城西など普通の行政区分で使われる区分で整理する視点も必要だと思う。	鶴田委員
民有地	東京の緑の7割は民有地であることから、緑を語る上では欠かせない。失われるリスクが高い民有地の緑を守るため、都市整備局でも緑確保の総合的な方針を作っており、都市部の民有地の緑を東京の緑の特徴としても取り上げることが重要	佐藤（留）委員
	民有地の緑で大きな面積を持つのは森林だが、林業に課題が山積している。そのあたりについても記載していただきたい。	
環境教育	多摩川にある水辺の学校は自然の持続的な利用や将来世代の育成などの拠点になると思う。都立公園も含めて、活動している団体名や環境教育プログラムを実施している場所などを地図にプロットしてほしい。	佐藤（初）委員
GISデータの活用	生物多様性の特徴をGISで整理し、各区市町村に提供すべき。例えば、文化的景観であれば、遺跡の位置をGISで重ねると、水と緑と遺跡あるいは文化・名勝というのは重なり、一つの地域的つながりがある程度理解できる。	鈴木部会長
東京の自然の評価	例えば山地では石尾根と陣馬山の半自然草原とか日原の石灰岩地とか、極めて特徴的なところが幾つかある。また、島丘陵である狭山丘陵はこれ自体が特徴的で、多摩丘陵は極めて里地型の丘陵である一方、加治丘陵や長淵丘陵は山であるため、山地性の昆虫が多く存在している。丘陵地ごとに特徴があり、そういう点を評価してみるのも重要である。（※レッドリストのGIS資料を活用したホットスポットの洗い出し）	須田委員
	市街地では、屋敷林の緑や農地の緑などを評価する軸を設けたらいいと考えている。例えば昔の条里制の景観が残る地域として景観保全に尽力している場もあるため、そういった地域を取り上げるなどである。拠点となる緑がない場でどのように生物多様性を守るかを考える必要がある。	

テーマ	意見	発言者
東京の魅力の発信	<p>外国人の東京に対するイメージは西新宿だが、東京は雲取山のようなところから、丘陵地、崖線、湧水が trasparenり、海辺や島（小笠原）がある。国際的に見ても、これこそナショナルパークシティであると思う。東京の見方を変えてしまうような、生き物の視点から打ち出せたら、この改定というのは非常に意味がある。トウキョウサンショウウオとか、トウキョウダルマガエルとか、「トウキョウ」という名前を冠している生き物が多々あることはほとんど知られていませんが、それを東京の人たち自身も認識する。そして、日本国内の人も首都東京がすばらしい緑にあふれ、豊かだから、我が都市もそうしようと追随する。そして世界的にも東京のイメージをどんどん変えていく、SDGsの先進都市だと言われるような可能性を持つ力は十分にある都市だと思う。そういった大きなビジョンというのが打ち出せたら、インパクトがあり、人々の認識や価値観が変わってくるのではないかと期待している。</p>	佐藤（留）委員
	<p>東京の自然の魅力とか素晴らしさの洗い出しが必要。例えば、生き物とか地質という視点だけではなく、社会的な方向からも見てみる必要がある。</p> <p>（今なお火を噴く活火山島と海洋島の両方を持っている自治体は東京都だけ。鹿児島県は活火山島はあるが、海洋島はない。沖縄県は海洋島はあるが、活火山島はない。しかも、両方の県にない2000メートルの亜高山帯の山まで東京にはある。下から数えて3番目の小さい自治体にそれが全部ある。こういうところを売ったほうがいい。東京で見つかった生き物もたくさんいる。そういう東京の売りを洗い出していく作業をしておく必要がある。）</p>	須田委員
生物多様性の主流化		
生物多様性の主流化	東京の自然のGISデータを子供たちの教育の中で活用し、アクティブラーニングでGIS情報の精度を上げるような教育をすると、生物多様性のリテラシーが向上する。SDGS教育にも寄与する取組である。	原口委員
生物多様性の主流化	主流化ができていないのは、それぞれの業界団体に影響力を持つチャンネルを通じたアプローチが不足していたからである。各地域でアプローチすべき方向性を示すような戦略にすることが重要であり、専門家だけが理解できる計画では普通の人には使えない。	原口委員
課題整理について		
課題整理	地域区分ごとに自然の特徴を整理しているが、課題についても十分に整理する必要がある。「長期的に目指す姿」を考えるときには課題が解決されている姿を考えなければならないので、伊豆島しょ地域の外来種や、オーバーツーリズムなど、今のところ、最重要課題をあげて「長期的に目指す姿」に反映したら良いのではないか。	佐伯委員